

## ミニ展示企画「トガリネズミ展」関連講演会

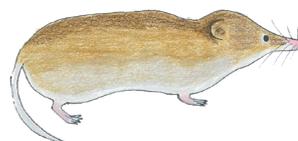
日時：2021年12月12日（日曜日）午後2時から3時半

場所：北海道大学総合博物館 1階「知の交流ホール」

人数：先着40名。当日博物館の開館（10:00）とともに整理券を受付で配布します。

スケジュール

14:00～14:30

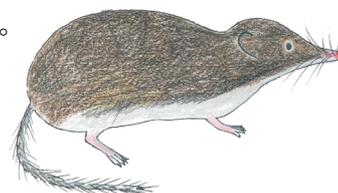


チビトガリネズミ

河原淳（環境省希少野生動植物種保存推進委員）

### 「トウキョウトガリネズミの出産と子育て」

2021年の8月に、飼育下において世界で初めてトウキョウトガリネズミの出産を確認しました。世界最小級の哺乳類であるトウキョウトガリネズミは、1903年に国内で初めて発見されて以来、2001年までは偶然の捕獲しかないと言われたほどの希少な種でした。2002年に私が本種を捕獲しやすい環境を発見後、生きて捕獲し、飼育できる技術が確立できたと言えるのは2005年頃です。その後、多数の生体を捕獲、飼育することで、生態が徐々に判ってきましたが、繁殖期の6月～8月に捕獲できない、捕獲されるのは約8割が雄という、繁殖生態の解明を目指すには困難な現実にぶつかりました。そして19年目の今年、私達がこれまで捕獲してきた213、214、215個体目が出産しました。今回は、初めて確認された本種の出産、子育ての状況について紹介します。



ヒメトガリ

14:30～15:00

本田直也（円山動物園）

### 「トガリネズミを知るために、動物園ができること」

2021年5月、円山動物園はトガリネズミの生態解明のために、北海道大学、東海大

学との共同研究を開始しました。動物園の役割の中に「種の保全」がありますが、種を守るためには対象種の生態や習性の理解が必要です。動物を飼育することで野外調査では得ることのできない多くの知見が集積できます。動物園はフィールドの研究者と協力しながら、飼育下での研究を実践し、そこで得られた知見を野外に還元することが使命です。2021年8月18日に根室で捕獲されたヒメトガリネズミ2個体が妊娠しており、その後9月8日と10日に出産を確認しました。13頭のうち10頭が無事に生育し、そこから多くのデータを得ることができました。今回は、円山動物園における飼育研究の意義や実際、そしてトガリネズミの日々の管理と今回の出産事例について紹介いたします。

**15:00~15:30** 質疑応答および論議

司会、進行役 **大館智志** (北大低温科学研究所・総合博物館)

問い合わせ先：オオダチ [ohd@lowtem.hokudai.ac.jp](mailto:ohd@lowtem.hokudai.ac.jp)

イラスト：田中元晴